

Discover My Dream 夢発見!

〈高大連携〉

地域創生☆政策アイデアコンテスト2017

高大連携講座受講者(チーム名SKY)は、昨年12月、東京大学にて行われた「地方創生☆政策アイデアコンテスト2017」の最終審査会及び表彰式(内閣府主催)に参加してきました。高校生以下の部で全国321チームより最終5チームに選出され、「チームラボ賞」という協賛企業賞を受賞しました。特に評価された点は、統計データに基づいて峡南地域の活性化に向けた活動(おみくじ、QRコード、動画)を考えるだけでなく、それらを実際に行動に移していたことです。最優秀賞(福島県の小学生チームが受賞)こそ逃しましたが、全国各チームから多くの刺激を受け、次につながる課題も見つけることができました。当日の発表の様子は、「地方創生 政策アイデアコンテスト2017」というHPで視聴できます。是非ご覧ください。



おもてなしのやまなし知事表彰

SKYは、今年1月、「おもてなしのやまなし知事表彰」の表彰式(山梨県観光部主催)に参加してきました。「しだれ桜の里づくり事業」、QRコードを使用した「身延どんぶり街道」のPR、観光客を身延町HPに誘導する取り組み、身延町を紹介する動画の作成など、SKYのこれまでの活動が、旅行者目線の活動の模範として評価されたためです。当日は、後藤知事より直接表彰状とお褒めの言葉を頂き、生徒にとっては大変貴重な経験になりました。来年度以降も、「自分たちが楽しむ」というSKYのモットーを大切に、峡南地域へ貢献できる活動に取り組んでいきたいと思ひます。



校長の

つぶやき



第4号は、「平成29年度集大成号」と銘打って、総合学科発表会や修学旅行を中心に、進路決定状況、演劇部クリスマス公演等々をお伝えします。本年度一新した「身高VIEW」の最終号です。

2月に入って、大寒波が押し寄せ最低気温がマイナス6、7度近くを記録する日々が続いています。そんな中、10日(土)身延町総合文化会館ホールにて本年度の「総合学科発表会」を開催しました。身延町町長様はじめ、県教育委員会、身延・南部・早川三町の教育長様や教育関係者、身延、南部両中学校の2年生やその保護者の皆さんなど多くの方々に来ていただきました。

ご承知のように、本校は総合学科高校です。その謂わば背骨に当たる部分が3年間のキャリア教育です。このキャリア教育を通して、これからの時代が求める身の回りの課題を発見する力、その発見した課題に主体的に係わっていくこととする意欲、そしてその課題を解決していく力をつけていきます。

生徒は今年も意欲的に取り組みました。どの発表も、自分と向き合い、人生について考え、積極的に社会とかがわっていかうとする真摯な姿勢が伝わってくるものでした(詳細は3面に)。

昨年12月、団長として2年次生と一緒に沖縄へ3泊4日の修学旅行に行ってきました。出発前の結団式において、基地問題はもとより、沖縄の歴史・文化・芸能・自然について、丸ごとしっかりと五感を働かせて感じとってほしいと話しました。

たくさんの楽しい思い出とともに、簡単に答えを出せそうもない様々な問いを、それぞれが持ち帰ってくれたことと思います。

暖かな沖縄から真冬の山梨に帰った2日後の16日(土)、高大連携事業において身延町の活性化に取り組んでいる本校生徒たち(「スカイ2017」)のビッグチャレンジが、東大において行われました。内閣府主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト2017」に応

募し、地方そして全国の書類審査を経て、321件の応募から最終審査会のプレゼンテーション5組の中に残りました。3年生は受験勉強の真只中、2年生は修学旅行から帰ってきたばかりという中での挑戦でした。惜しくも大臣賞は逃しましたが、チームラボ賞をいただきました。

身延町からは、送迎バスを出していただきました。ありがとうございました。

「スカイ2017」のビッグチャレンジから1週間後、暮れも押し迫った24日(日)、演劇部によるクリスマス公演が、富士川町のますほ文化ホールで行われました。クリスマス・イブの午後にもかかわらず、300人を超える方々がご来場くださいました。吹奏楽部のミニコンサート、美術部のミニ展示会、家庭科クラブの手作りクッキーの提供など、文化部総出演のアットホームな公演となりました。

イブの宵、ご家庭の団らんの話題に上ったのなら幸いです。

年が明けての1月31日、高大連携事業の中で身延町の活性化に取り組んでいる歴代「スカイ」の活動に対して、山梨県より「おもてなしのやまなし知事表彰」を頂きました。

卒業式まで残すところ1週間余り、3年次生は、「夢の実現」に向けて、それぞれ次のステージに向けて歩み出す時が近づいています。

環境はそれぞれ大きく変わっていきますが、自ら学び考え行動する自立した力と、考え方の違いを超え尊重し高め合う協働する心、この二つの育成を生涯にわたり自らに課して、この変化の激しい時代を生き抜いていってほしいと思ひます。

そして、成熟社会日本の個人、家族、地域更には日本の新しい在り方を創造していかうと思ひます。

そのような気概を持って新たなスタートを!

SHINKO 身高VIEW

Vol.4
2018.February
MINOBU
HIGH SCHOOL

平成29年度集大成号



僕らは高く羽ばたく!!



12/11~14

楽しかった修学旅行



『初めての民泊』 2年C組 杉山桃加(南部中)

修学旅行2日目、私たちは伊江島へ民泊を体験しに行きました。最初民泊へ行くのは嫌でした。「民家の人はどんな人だろう」「うまく話せるかな」など不安だったからです。しかし伊江島へ着いた瞬間にはその考えは吹き飛んでしまいました。

私がお世話になったのは、「山城さん」という方で、とてもおもしろく、優しい方でした。山城さんは一人だったにもかかわらず、私たち4人が楽しめるよう、たくさんの体験を用意してくれていました。中でも3種類の楽器体験はとても印象に残っています。山城さんは一から、わかるまで教えてくれました。今まで教えた中で一番速く弾けるようになったと言われ嬉しかったです。

修学旅行の行程の中で一番嫌だった民泊が、終わってみれば一番いい思い出になっています。今回の民泊を通して、人と人の繋がりをとても感じる事ができました。伊江島で学んだことを忘れずに、これからの生活に生かしていきたいです。

『「命」の重み』 2年B組 田中涼雅(身延中)

私は今回の修学旅行で、平和の大切さを改めて感じました。沖縄は、日本で唯一地上戦が行われた地です。教科書の写真で見たことはありませんが、実際に行ってみると、今も生々しく残る戦争の爪痕や、当時の写真など、私が思っている以上に悲惨で目を背けたくなる光景がそこにはありました。多くの一般住民が巻き込まれた沖縄の悲劇ですが、70年がたった今では語り継ぐ人々も少しずつ減り、徐々に沖縄戦の記憶も薄れつつあることを知りました。

今回の修学旅行を通じて、身延高校2年次99名は「命」という言葉の重み、大切さを学びました。今私たちがこうして当たり前のように過ごしている日々も、そうした犠牲の上で成り立っているものです。犠牲になられた方々の想いに少しでも報いるため、二度と戦争という悲劇を起こさないためにも、私たちのような若者が後世に語り継いでいかなければならないと思いました。

総合学科発表会

2月10日「総合学科発表会」が、身延町町長様はじめ県や早川・身延・南部3町の教育関係者、中学生や保護者の皆さんなど多くの方々にお越しいただく中、身延町総合文化会館で行われました。総合学科高校である本校の、その背骨に当たる部分が3年間のキャリア教育です。このキャリア教育を本校では「身高ドリームプロジェクト」と呼びます。その1年間の取り組み・成果について発表しました。

1年次生は「夢の発見」をテーマに、夏季休業を中心に実施した職業人インタビューについて、2年次生は「夢の育み」をテーマに、夢の実現に向けて実力を蓄える取り組みについて、3年次生は「夢の実現」をテーマに、進路実現に向けての3年間の取り組みについてそれぞれ発表しました。

また、山梨県立大学と連携し「地域の将来を考える人材の育成」に取り組み4年目となります。身延町が昨年度から始めた「しだれ桜の里づくり事業」のように、身延高校生の感性とアイデアが、町の活性化の具体的施策へと繋がっていくよう引き続き取り組んでいます。その活動状況も合わせて発表しました。



私の高校生活～野球のち進路～ 3年B組 須貝拓斗(神奈川県・清新中)

身延高校卒業まで残りわずかとなった。

私は、野球に集中できる環境を求め神奈川県から身延高校に入学した。親元を離れ済美寮に入寮し、高校生活を送ってきた。そんな時間ももう終わってしまう。

あっという間に過ぎてしまった3年間で、私は多くのことを学ぶ事ができた。決断力を養うことができたし、諦めずに挑戦し続けることを学んだ。そして支えてくれる人の大切さにも気づく事ができた。ただ漠然と高校生活を楽しんでいたら得られない学びであったと思う。それは「甲子園」や「大学進学」といった目標が、常に目の前にあったからこそ得られた学びだからだ。だから私は、総合学科発表会で後輩たちに「目標を持ち続けることの大切さ」を伝えることで、身延高校に、そして高校3年間を支えてくれた人々に恩返しをしたい。

留学を経験して 2年C組 藤田梨子・山下莉子(身延中)

私たち二人は英語に興味を持っていたため、夏休みを利用して、グローバル人材育成留学プログラムに参加しました。アメリカのアイオワ州デモイン市への短期留学だったのですが、私たちの英語に対する気持ちを大きく変えてくれるとても良い経験となりました。

今回の留学を通して、現地の人々と英語でコミュニケーションをとることの難しさ、プレゼンテーションでの主体性・積極性・異文化の理解について学びました。行く前と比べると、実際に行ってみて初めてわかることばかりでした。「英語に興味がある!」「英語系の進路に進みたい!」と思っている人が留学に行きたいと思えるような発表ができたと思います。

職業人インタビュー 1年B組 成澤優翔(身延中)

私たちは、保育士についてインタビューをしてきました。私がイメージしていた保育士とは全く違い驚きました。インタビューの中で、「私たちは将来を担う人材を育てる意識を持っている。」とおっしゃっていた保育士さんの熱い思いを感じました。その思いの熱さを伝えるために発表を作成しました。

1年C組 小森しもん(早川中)

私は職業人インタビューを通して、考え方や知識だけでなくもう一つ勉強になったことがあります。それは「愛」をアプローチする方法です。インタビュー先の絵本作家さんは、しっかり伝わるように、なおかつ情熱をこめた口調で話をして下さいました。私も絵本作家さんのように、人に伝えられるようにしながら、聞いている皆様との間に温度差が生まれないようにちょうど良い言葉遣いで発表したいです。

高大連携で学んだこと 2年B組 酒川紋乃(城南中学校)

私は今年度から高大連携授業に参加し、どうすれば身延町を活性化できるか、身延町の良さをどう伝えるか、参加者皆で意見交換しながら動画制作やQRコード政策に挑戦してきました。

高大連携授業では、山梨県立大学に協力していただきながら、身延町の活性化に高校生が目線で寄与するということを目的としています。その活動の中で私は、町を活性化させることの大変さ、制作活動の苦勞、仲間の大切さを学ぶ事ができ、なおかつ制作における知識を身につけることができました。

総合学科発表会では、昨年東京大学で行われた「地方創生☆制作アイデアコンテスト」の最終審査会で賞をいただいたアイデアの発表を行いました。それらを通じて身延町で生活する人々に、地域の良さを再確認してもらえたらいいなと思います。また私たちのそうした取り組みを全校生徒、他の高校、中学生、そしてなにより多くの身延町の方々に知ってもらいたいと思っています。

演劇部 クリスマス公演

平成29年12月24日富士川町まほ文化ホールにて、演劇部主催の「クリスマス公演」が開催されました。当日は美術部の作品展や吹奏楽部の公演、家庭クラブによるお菓子の配布など、身延高校文化部総動員で、クリスマス公演に花を添えました。



3年次生の進路決定状況

キャリア教育部長 湯泉英行

- 3年次生(81名)の進路決定状況です。(1月31日現在)
- 【四年制大学】 26名 国立大学(山梨大学・山梨県立大学・都留文科大学に4名) 私立大学(法政大学を初めとして22名)
 - 【短期大学】 4名
 - 【専門学校】 21名
 - 【公務員】 4名(身延町役場1名、峡南広域行政組合消防本部1名、海上保安庁1名、自衛隊1名)
 - 【民間就職】 18名
 - 【未定】 8名

夢に向かって 羽ばたけ、身高生!